

新時代の天皇論

池間忠次

日本橋出版

タイトルからお察しの通り、この本は天皇や天皇制の存在意義を語ることをメインテーマとしており、純粋な古代史の研究書というわけではありません。

ですが、天皇の存在意義を示し、天皇制の始まりを求めて過去へと遡って行くと、結果的に「魏志倭人伝」に記された邪馬台国にたどり着くという内容になっています。

そのため、邪馬台国の比定地も従来の距離や方角、地名や古書古伝、発掘された遺物など等から推察しているのではなく、『魏志倭人伝』に記された卑弥呼や邪馬台国の制度的特徴から明らかにしており、全く新しい手法となっています。

また、結論を出す方法自体は全く新しいものですが、結論自体は数多ある説の中で「邪馬台国の会」の安本美典先生の説とほぼ一致しているというのも特徴的です。